

令和3年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間・最終 )

両城中学校区 校番 20 学校名 港町小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>貫 主体的な学びの推進による基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成</p>	<p>・算数科の授業研究を通して、基礎基本の定着と主体的な学びを推進する。</p> <p>・総合的な学習の時間において、対話的・協働的な学びを工夫することで、思考力・判断力・表現力を高める。</p>	<p>・学校全体では、算数科市販テストの平均が目標80%を達成することができた。しかし、高学年の平均は75%である。特に、図を使って考える問題や公式を使って考える問題については、問題の読み取りや求答の判断ができていない児童が多い。また、基礎的な計算力が身に付いていない児童もあり、二極化の傾向がみられる。</p> <p>・「教えて考えさせる授業」を実施することで、1時間で解く問題数が増え、苦手の児童も授業に参加できるようになった。しかし、教師説明に時間がかかり、理解深化の時間が少なくなってしまうことがあった。</p> <p>・課題発見・解決学習に関わる肯定的評価が94%だった。4年生は、自分の身近な校区を巡って、危険な場所を見つけ、家の人に伝えるというゴールを明確にした単元構成にすることで、児童が意欲的に学習を進めることができた。</p> <p>・調べたことをタブレット端末を使って発表する授業をすることで、相手意識をもって表現する力が高まった。しかし、調べた資料を効果的に活用することが難しい。</p>	<p>・標準学力調査の結果の分析を通して、それぞれの学年の課題を明らかにした上で、指導する。</p> <p>・文章題の指導では、図や具体的な場面と関連付けて表現させることを多く取り入れる。また、読書活動を増やしたり、他教科においても文章の読み取りの指導をしたりすることで、文章題を解くための読解力を身に付けさせる。</p> <p>・「教えて考えさせる授業」を引き続き実施することで、基礎的な問題から発展的な問題へ段階的に取り組むことができるようにする。</p> <p>・振り返り活動を充実させ、自分達にできることは何かを考えさせるなど、課題を自分達の問題として捉えさせ、総合的な学習の時間を進められるようにする。</p> <p>・自分の考えをまとめることに苦手意識をもっている児童には、発表例をもとにまとめさせる。</p> <p>・スライドを使った説明の仕方を指導する際は、スライドと発表原稿を別々に作らせたり、効果的なスライドの活用をさせたりする。</p>
**	<p>貫 自他を大切にしながら高め合う児童の育成</p>	<p>・縦割り班活動等の充実や相互評価の工夫を図ることで、自他のよさに気づき、互いを思いやる態度を育てる。</p> <p>・響き渡る挨拶(校内、友達、来校者、見守ってくださる地域の方等)を目指す。</p>	<p>・縦割り班掃除では、低学年は上級生の掃除の仕方をお手本に黙って掃除をすることができるようになった。また、中学年は、縦割り掃除での役割ができたことで、責任感をもった児童が多かった。高学年は、縦割り班の掃除メッセージを受け取ることで、自己肯定感が高まった。</p> <p>・縦割り班を活用した児童集会を開くことで、5年生はリーダーとしての自覚をもつことができるようになった。また、6年生は自分たちで集会を開いたという達成感をもつことができた。さらに、低学年のことを気にしたり、声をかけたりしている児童が多かった。</p> <p>・積極的に挨拶する児童は全体的に少ない。また、大きな声で挨拶をすることについてはできていない。</p> <p>・外部の来客には挨拶がよくできている。しかし、校内では自分からする児童としない児童に分かれている。</p> <p>・運営委員会で、挨拶キャンペーンを実施し、挨拶カードを集計したり、表彰したりすることで、児童の主体的な活動にすることができた。</p>	<p>・新型コロナウイルス対策を引き続き行いながら、異学年交流をできるだけ行うことで、児童の自己肯定感や互いを思いやる態度を育てる。</p> <p>・6年生を送る会を通して、6年生に感謝の気持ちを伝えるとともに、5年生にリーダーとしての気持ちをもたせる。</p> <p>・縦割り班の5・6年生に対し、感謝の気持ちのメッセージを送る。</p> <p>・委員会で、自分たちが工夫して考えた活動に取り組みさせる。</p> <p>・人より先に挨拶することを意識させ、自分から進んで挨拶することができるようにする。</p> <p>・挨拶キャンペーンのチェック項目に「人より先に挨拶する」を入れ、引き続き取り組む。</p>
*	<p>社会で生き抜くための体力と生活習慣の向上</p>	<p>・外遊びの充実により、体力を向上させる。</p> <p>・基本的な生活習慣の質を高め、メディアコントロールができる子どもを育成する。</p>	<p>・外遊びキャンペーンは外遊びを意識できてよかったが、集会の準備や委員会の仕事で、1日1回外遊びが守れない児童もいた。また、外遊びキャンペーンでない時期には、大休憩、昼休憩の両方も外遊びできない子もいる現状がある。</p> <p>・工事のため、遊具や一輪車が使用できなくなり、ボール遊びを普段しない児童は外に出にくくなり、外遊びする児童が減った。また、アスレチックの密度が高くなった。</p> <p>・ノーメディア週間は、児童に落ち着きがみられるという保護者からの連絡もある。引き続き継続して取組を進める。</p> <p>・タブレットを、隠れて学習以外のことに使用している児童がいる。</p> <p>・日常的にメディアに触れている児童が多く、生活習慣の乱れにつながっていると考えられる。</p>	<p>・縄跳び検定に向けて、縄跳び遊びを奨励していく。</p> <p>・1日1回外遊びのきまりを学級で再度確認し、学校全体で指導する。</p> <p>・体育館の授業や学級活動で集団遊びを紹介し、外遊びの種類を増やし、外遊びの楽しさを味わわせる。</p> <p>・オンラインゲームを通じたトラブルが起きているため、家庭でのルール作りをうながしたり、保護者への啓発を根気強く進める。</p> <p>・来年度に向けて、中学校区での統一したルール作りを進める。</p> <p>・3学期も引き続き、生活リズムばっちり週間とノーメディアカードの取り組みを行う。</p>
業務改善	<p>・教職員が自らの意欲と能力を発揮できる教育環境の整備</p>	<p>・児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>・長時間勤務の削減を行う。</p>	<p>・朝読書の時間(20分)に提出物や宿題を確認できたこと、給食時間に担任外が補助したことは、補充学習が必要な児童に個別指導を行うなど、児童に直接向き合う時間の確保につながった。</p> <p>・定期的に評価に関わる研修をしたこと、成績に関わる見通しを示したこと、学期末の放課後に時間を確保したことで、2学期末は計画的に成績処理を進めることができた。</p> <p>・分掌部会で、「誰が」「いつ」「何をするか」など業務の振り分けを明確にすることを行った。主任の業務を軽減することや、部員が分掌の仕事に対して主体的に向き合うことにつながった。</p>	<p>・来年度も朝読書の時間を設定することで、児童と向き合う時間を確保する。</p> <p>・来年度も、評価研修、成績処理に関わる研修、見通しの提示や進捗状況の確認、学期末の放課後時間の確保を継続していく。</p> <p>・分掌部会と企画委員会を連動させ、業務改善への意識の持続、校務分掌の割り振りによる主任の業務軽減、業務への主体的な参画による人材育成に取り組んでいく。</p>